

CCleaner (Cクリーナー)の削除対象の解説

CCleaner ver5

【ご注意】 自己責任でご利用下さい。	削除した結果発生したトラブルに関しましては、ジョイメイトは一切の責任を負いません。無用なトラブルを避けるため基本的には最新バージョンのご使用を推奨します。
項目名	削除対象
【Internet Explorer】	
インターネット一時ファイル	インターネット閲覧の際に「キャッシュ」として保存されている画像などの情報を削除します。 [C:\Users\%PCUSER%\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files]など。
履歴	いつ、どのサイトを閲覧したのかを履歴として一覧に保存していますが、この履歴を削除します。
クッキー	Yahoo!メールなどのログインの際に使われているものです。ログイン状態をいつまで保持するかはこのクッキーの情報を使って判定しますが、そのクッキーを削除します。
入力したアドレスやパスなど	ホームページアドレスなどの履歴を表示させ、簡単に入力を済ませられる機能がありますが、この履歴情報を削除します。
Index.datの削除	アクセスしたURLとインターネット一時ファイル内のフォルダ名が記録されていますが、これを削除します。
保存場所	何らかのファイルをダウンロードする際に保存先を選択しますが、その保存先はInternet Explorerが記憶します。この「保存先は●●である」という情報を削除します。
フォームへの入力履歴	IDやパスワードを打ち込みしようとしている際に、過去に入力したものが一覧で表示される機能があります(オートコンプリート機能)。簡単に入力を終わらせられるのがメリットですが、セキュリティ保護を考慮すると危険を伴います。必要であればこちらも削除できます。
保存されたパスワード	各種サイトのIDとパスワードの情報をInternet Explorerに記憶させることができます。簡単にGmailなどのサイトにログインしやすくなりますが、セキュリティ保護を考慮するとかなり危険です。必要であればこちらも削除できます。
【エクスプローラ】	
最近使ったファイル	各種ファイルを開いた際に、次回以降すぐに開くことが出来るように履歴を残しています。この履歴情報を削除します。
ファイル名を指定して実行(スタートメニュー)	Windowsキーを押しながらRキーを押下すると、「ファイル名を指定して実行」の画面が表示されます。ここで入力した情報が履歴として保存され、次回入力時にその情報が表示されるようになっていますが、この履歴情報を削除します。
その他の[最近使ったファイル]リスト	最近使ったファイルのリストをクリアします。
サムネイル キャッシュ	画像ファイルなどを縮小画像で確認することができますが、この縮小画像のことをサムネイルと言います。このサムネイルの情報を保存して、高速でサムネイルを表示できるようになっていますが、これを削除します。
タスクバー ジャンプリスト	Windows7以降、タスクバー(スタートボタンなどが配置されている、通常は画面下にあるバーのこと)に格納されているWordなどのアイコンを右クリックすると、ジャンプリストというメニューが表示されるようになっています。このジャンプリストの中に「最近使ったもの」の履歴が表示されるようになっていますが、この履歴情報を削除します。(「いつも表示」するように設定したものの一覧はクリアされません)
ネットワークパスワード	他のPCとファイルの共有を行う際にパスワードを設定している場合、このパスワードの情報を記憶する機能があります。このパスワード情報を削除します。
【システム】	
ごみ箱を空にする	ファイルを削除する際、削除ファイルはごみ箱へ保管されます。削除してもそのごみ箱に情報が残るため、「削除したけどファイルが必要になった」というときにごみ箱からファイルを戻すことが可能になっています。このごみ箱に残っている情報を空にします(空にすると、簡単にはファイル)
一時ファイル	セキュリティの更新などの際に一時的にファイルを作成する場合があります。その一時的に作成されたファイルのことを一時ファイルと呼びます。一時的にしか使われない上、使われた後は大体用なしになりますので、それらの情報を削除します。 [C:\Windows\Temp]、[C:\Users\%PCUSER%\AppData\Local\Temp]など。
クリップボード	文字やファイルなどを右クリックしてコピーを行うと、クリップボードという場所に情報が保存されます。その情報を削除します。
メモリーダンプ	パソコンで障害が発生した時の状態を後で調査し、原因を特定したり、対策を立てたりするために利用されるファイルですが、開発者や上級者向けのファイルなので、削除しても差し支えはありません。
CHKDSKコマンドのフラグメント	ハードディスクに問題があると、この情報を保存し、ハードディスクの状態のチェックの必要性を判定する機能があります。通常は削除で構いませんが、チェックディスクの画面が再起動の度に出たり、パソコンでフリーズが頻発したりする場合は外しておくほうがいいでしょう。
ウィンドウズ ログファイル	OSにて各種処理のログ(履歴)を記憶しています。この履歴を削除します。
ウィンドウズ エラー報告	プログラムでエラーが発生し、強制終了した際に、エラー報告のレポートが作成されます。このレポート情報を削除します。
DNSキャッシュ	ネットワークに繋がっている際にDNSという情報を拾い、パソコン内で管理していますが、その情報を削除します(社内LANを組んでいる環境の場合は取扱注意)。
フォントキャッシュ	Wordなどで、いわゆる文字の「書体」の情報をキャッシュという形で記憶し、瞬時に画面に表示させる機能がありますが、このキャッシュデータを削除します。文字化けが発生するときに有効な場合があります。
スタートメニュー/デスクトップのショートカット	ショートカットファイルそのものではなく、ショートカットを操作したことによってできたキャッシュファイルを削除します。